

D ガラスのメンテナンスについて

ガラスの汚れは、放置しておくとも時間の経過とともにガラス表面に固着して取れにくくなり、ガラスの機能を著しく低下させることにもなります。ガラスの美しさと性能を長期にわたり維持していただくために、定期的なクリーニングの実施をお奨めします。

1. ガラス汚れの原因

(1) 大気中の塵や埃

大気中の塵や埃による汚れは、定期的にクリーニングしておけば問題ありませんが、長期間放置しておくとも、ガラス表面に汚れが固着して、水や中性洗剤による一般的なクリーニングでは落とせなくなる場合があります。固着して落ちない汚れは、研磨剤などで削り取る以外方法がありません。その場合、ガラス表面にキズをつけることになってしまいます。

(2) シール材に含まれる成分

外壁の目地やガラス施工に使われるシール材に含まれる可塑性成分などの成分が汚れの原因となることがあります。

(3) 水道水

頻繁に水道水がかかるところや噴水の近くなど、水で濡れたり乾いたりを繰り返すところは、水垢と呼ばれる白濁が発生することがあります。一般的なクリーニングでは落ちにくくなることがあるのでご注意ください。

(4) 油類やたばこのヤニ

油類やたばこのヤニの汚れは、アルコールや砥粒を含まない中性洗剤を使用すれば、ほとんどの汚れを落とすことができます。

(5) セメント・モルタルの成分

ガラス面にセメントやモルタルが固着した場合、化学的に除去できなくなります。モルタルやコンクリート製品から発生したエフロレッセンスが付着した場合も同じです。スパンドレル部にPCコンクリートなどを用いる場合は、納まりについて十分ご注意ください。

(6) 外壁洗浄用の薬剤

カーテンウォール、タイル、石などの洗浄で、薬剤を使用する場合、強酸、強アルカリ、フッ化水素などが含まれていると、ガラス面が薬品で侵されることがあります。薬剤を使用して外壁を洗浄する際は、確実にガラス面の養生を行ってください。

2. クリーニング方法

(1) クリーニングの頻度

周囲の環境や大気汚染状態によって異なりますが、一般的に1～2カ月に一度のクリーニングをお奨めします。

(2) クリーニング方法

ガラス面のクリーニングは、室内外とも水拭きをお奨めします。落ちにくい汚れの場合は中性洗剤を使用して汚れを拭き取

り、その後、水拭きしてください。

■水拭き(一般的なクリーニング)

- ①水(ぬるま湯)に浸した柔らかい布でガラス面を濡らす。
 - 鳥の糞などのこびりついた汚れは、布で押さえるように拭き取ってください。
- ②ゴムスクリーパーで水を切るように清掃する。
 - スクリーパーの先端には汚れが付着するので、都度汚れを落として使用してください。
 - スクリーパーの裏側の金具をガラス面に当てないように注意してください。
- ③必要に応じて乾燥した布で拭く。

■中性洗剤(水拭きで落ちにくい汚れ)

- ①中性洗剤の水溶液に浸した柔らかい布で汚れを拭き取る。
 - こびりついた汚れは布で押さえるように拭き取ってください。
- ②■水拭きの手順でクリーニングする。

(3) クリーニングの注意点

- カッターナイフや金属スクレーパーなどの硬いものでガラス面をこするとキズがつくことがあるのでお避けください。
- 砥粒、強酸、強アルカリ、フッ化水素などが含まれる洗剤でクリーニングするとガラス面にキズがつく恐れがあるのでお避けください。
- ガラス表面が結露で曇った時に、吸盤の跡やラベルの跡が浮き出て見えることがあります。中性洗剤で落とせない場合、自動車ガラス専用研磨剤「キイロビン120」^{*1}で除去することができます。吸盤跡やラベル跡はガラスの強度や性能・機能に影響を与えるものではありません。

※1製品名：自動車ガラス専用研磨剤「キイロビン120」

発売元：株式会社プロスタッフ

全国の自動車用品店やホームセンターで取り扱っています。

使用方法、使用上のご注意は弊社ホームページをご覧ください。

<https://glass-wonderland.jp/kirobin/>

3. 定期点検

ガラスが破損したまま放置していると、破片の脱落事故が発生する危険性があります。スパンドレル部分や塔屋など、室内から目視できない部分を含めて、定期的な点検を行うことをお奨めします。

定期的にガラスのクリーニングを実施していただくことにより、ガラス破損の点検を兼ねることにもなり、ガラスの美観と安全性を維持することができます。